

## 吹田市環境審議会議事概要

平成 24 年 (2012 年) 8 月 16 日 (木)

午後 2 : 00 ~ 午後 4 : 00

吹田市役所 高層棟 4 階 特別会議室

### 〈出席委員〉

上甫木昭春 委員 (会長)	近 藤 明 委員	三 輪 信 哉 委員
和 田 武 委員	中本美智子 委員 (副会長)	足 立 将 一 委員
池淵佐知子 委員	澤 田 雅 之 委員	竹 村 博 之 委員
山 根 健 人 委員	当 麻 潔 委員	前 田 昌 章 委員
麻 山 唯 圓 委員	森 尾 恒 久 委員	井 川 文 夫 委員
奥 井 景 子 委員	北 啓 二 委員	木 本 瑞 枝 委員
末廣美津子 委員	立 木 靖 子 委員	

### 〈欠席委員〉

岩 城 裕 委員	江 川 直 樹 委員	芝 田 育 也 委員
塚 本 直 幸 委員	瀬 部 俊 司 委員	

※委員 25 名中 20 名の出席により吹田市環境審議会規則第 5 条第 2 項の規定である会議の開催要件を満たしている。

### 〈事務局〉

山中副市長 羽間環境部長 柚山環境部次長 後藤環境政策室長 中島環境政策室参事  
環境政策室 大重主幹 西野主査 楠本主査 薬師川主査 萬谷主査 野田主査  
伊勢田主任 小松主任  
環境保全課 齋藤課長 片岡主幹 渡邊主幹

〈傍聴者〉 3 名

### 〈次第〉

- 1 会長・副会長の選出について
- 2 「吹田市第 2 次環境基本計画」の進行管理について
  - (1) 平成 23 年度施策等の評価について
  - (2) 計画の見直しについて
- 3 その他

〈進行〉

1 副市長あいさつ

2 委員紹介

3 事務局紹介

4 会長・副会長の選出

事務局 ○議事次第に従いまして、会長並びに副会長の選出についてお諮りしたいと思  
います。長らく当審議会の会長にご就任いただいております大阪大学の新田先  
生がこの度ご勤務のご都合で委員を辞任されております。審議会規則第4条に  
よりますと、会長並びに副会長は委員の互選により定めとなっております。  
いかがいたしましょうか。

委員 ○会長については、上甫木先生をご推薦したいと思います。

事務局 ○ただ今、会長に上甫木委員をご推薦いただきましたが、皆様いかがでしょうか。

委員一同 ○異議なし

事務局 ○ありがとうございます。それでは、会長には上甫木委員にご就任をお願いした  
いと思います。

○引き続きまして、副会長の選出についてお諮りしたいと思います。慣例に従い  
まして、2号委員にご就任をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

委員一同 ○異議なし

事務局 ○それでは、2号委員から副会長候補をご推薦いただければと存じます。いかが  
でしょうか。

委員 ○中本委員を推薦します。

事務局 ○ただ今、中本委員のご推挙がございました。副会長には中本委員にご就任いた  
だきたいと存じますが、いかがでしょうか。

委員一同 ○異議なし

事務局 ○それでは、会長、副会長席へお移りいただきますようお願いいたします。

会長 ○〈あいさつ〉

副会長 ○〈あいさつ〉

5 傍聴者確認（3名）

—開会—

## 「吹田市第2次環境基本計画」の進行管理について

会長 ○それでは、これから会議次第に基づいて議事に入りたいと思います。本日は「吹田市第2次環境基本計画」の進行管理について、(1)平成23年度施策等の評価、(2)計画の見直しについて審議をいたします。まず、事務局の説明を受けたいと思います。

### (1) 平成23年度施策等の評価について

事務局 ○<吹田市第2次環境基本計画の進行管理について(資料1 P1~P3)の報告>  
会長 ○全体の体系と【I-1 エネルギーを適正に利用できる低炭素社会への転換】についてご質問があれば受けて、前に進みたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### ◆環境指標の表現について

委員 ○P3の環境指標に「○40.0%増、△100.0%減、×50.0%減」という記載がありますが、よくわからない表になっていると思います。例えば、全体で増えたものが何項目、維持したものが何項目、減ったものが何項目という形で、10項目のうちいくつつかという表現の方がわかりやすいと思いますので、この表記は検討の余地があるのではないのでしょうか。

会長 ○環境指標については、項目数がP2の上から【10】【6】【8】と書かれていますが、この環境指標が前年度と比較してどう動いたかというのを○△×で表現しています。ご指摘のとおり、私も%はいかなものかと思いますので、これはあとで議論したいと思います。

○他にご質問はございませんか。

委員 ○P3の代表指標の【I-4】の吹田市域の緑被率がすべて(―)となっていますが、それなら他の項目の指標があってもよいのではないかと思います。

事務局 ○P10に、今ご指摘いただいた【I-4 人と自然とが共生する良好な環境の確保】の指標の評価がありますが、代表指標については直近のデータがないため(―)としています。ただし、環境指標については、項目として「公共施設の緑被率」「市民農園の区画数累計」等、何点かあります。そういう中で補足ができないということであれば、今年度の見直しの中で代表指標についても検討し直す必要があるかと思います。

会長 ○ご質問があったように、P3の上の表が全体像を示していますので、その中身をP4~P6まで説明していただいて、質疑応答をした方がよいと思いますので、引き続き説明をお願いします。

- 委員 ○P3 の表だけではわかりませんが、P7 の表を比べながら見るとわかりやすいので、説明される時に後方のページも一緒に見ていただいた方がよいと思います。
- 会長 ○それでは、P4 以降について、可能であれば P7 以降の情報も加えていただきながら説明をお願いいたします。
- 事務局 ○<吹田市第 2 次環境基本計画の進行管理について（資料 1 P4～）の報告>
- 会長 ○吹田市第 2 次環境基本計画の平成 23 年度の集約ということで説明していただきました。どこからでも結構ですので、ご質問、ご意見等をお願いいたします。

#### ◆表記方法について

- 委員 ○これが原案としてそのまま発行されるのでしょうか。
- 事務局 ○ホームページでの公表については、これと行政の方の施策となります。
- 委員 ○それであれば、やはり見難いと思います。代表指標の評価のところに目標値がなければ、表からはなかなかわかり難いと思います。
- それから、○△×もわかりづらいので、始めから P7 以降に対して総評を書いた方がわかりやすいのではないかと思います。
- 会長 ○事務局はいかがでしょうか。
- 事務局 ○目標値は、出さなければわからないと思いますので、入れたいと思います。
- 表記の方法は毎年試行錯誤を繰り返しており、前回、「対前年比の%を入れなければわからない」というご指摘をいただきました。ただ、入れ方については、この表では見難いところがあり、1→2 は倍増、1→0 は-100%という表記はどうかと思うところもありますので、次の議題である「環境基本計画の見直し」の中で、どのような進行管理が一番見やすいかということを検討させていただきたいと思います。
- 会長 ○内容がわからないために、環境指標の○△×がわかり難いので、これについては、P7 以降の各項目におけるこの 2～3 年の動きを可能な範囲で入れてはどうかという意見だと思います。その方がわかりよいと思いますが、その辺りはどうでしょうか。
- 事務局 ○表についてはもう少し見直させていただくことと、表の意味を、施策の総評の中にコメントとしてもう少し丁寧に書かせていただきたいと思います。
- 委員 ○総評の文章よりも表の方が見やすいので、P7 以降の表でよいと思います。その際、P7 以降の表の中に○△×で書かれているのが平成 23 年度の評価だけで、どのように動いたかを知るために P3 の○△×になっていると思うので、例えば、P7 以降の表の中の平成 21 年度、22 年度の指標と、それに対する評価を○△×で表現していただくと一見して理解できると思います。
- 会長 ○P3 と P7 を 1 ページにまとめてもらえるとよいのではないかと思います。内容

的にはその内容で、わかりやすく表現していただきたいということです。

事務局 ○二つに分かれている部分の一つにして、各項目の柱を1ページでコンパクトにまとめるようにしたいと思います。

### ◆【Ⅲ 環境学習・環境教育の推進】の環境指標について

委員 ○P13のⅢの環境指標の中に「まちづくり市民塾での環境関連講座への参加者数」という指標がありますが、まちづくり市民塾は環境に特化した市民塾ではないので、環境をテーマとした市民塾の応募があるかどうかによって左右されるような環境指標には疑問を覚えます。それよりも、例えば、環境学習・教育を実際に行っているNPOや市民団体の数がどのくらい増えたか等も指標として考えられますし、それを指標にしてほしいという意味ではありませんが、いずれにしても、その時々によってテーマがあるかないかわからないような指標ではわかりづらいと思います。

事務局 ○平成21年度からスタートした基本計画ですが、平成20年度にこの項目を決めるに当たり、基本的に定量的な評価ができる数値を探しました。しかし、その中には時事的なものも入っており、4～5年に1回の見直しでは、その間になくなってしまったり、新たに良い指標が出たり、そういう状況が出てくると思います。今、取り組んでいる新たな基本計画の指標のあり方について検討する際に、参考にさせていただきたいと思います。

会長 ○その他、ご意見はございませんか。

### ◆指標の設定について

委員 ○環境指標というのは安定して長期にわたって使えるような指標であることが大事だと思います。それによって長年の傾向性が読み取れるので、環境指標がいろいろと変わるのは問題かと考えます。例えば、ヒートアイランド現象に対する対策は非常に斬新で、素晴らしいと思いますが、P9の環境指標の中にはヒートアイランド対策を表現するような指標が抜け落ちています。環境指標を時々見直して改廃することは可能なのでしょうか。一度、決めたら10年間続けるようになっているのでしょうか。

事務局 ○目標とする指標については、平成21年度以降、当審議会でご指摘を受け続けており、目標を表している数字なのか、例えば、景観であれば景観形成地区の指定区域の数か、あるいは、それよりも市民満足度かという問題があります。ただ、やはり定量的な評価をしたいということで、数字で挙がってくるものを並べたという経緯があります。それで、目標を定められないものを環境指標として、目標を定められるものを代表指標としたとした経過があります。

- その際、指標の設定に関して課題を残したままスタートしたために、例えば、CO<sub>2</sub>排出量やごみの量等の目標にする直接的な指標と、例えば、ペットボトルの回収拠点の箇所数等、達成目標ではない進行管理上の指標が混在しています。
- それから、定量的な指標と定性的な指標がありますが、定性的な方が適している分野を無理に定量指標にしたところがあります。
- また、数字として確定した数字を持っていないけれど、市民の目から見るとその数字が最適だと思われるものもあります。
- このような課題を今回の基本計画の見直しの際に整理し、進行管理にふさわしい、この数字の推移を見れば目標に向かってどの地点にいるかがわかるような指標にしたいという思いはありますので、来年度になりますが、環境審議会からのアドバイスもいただきたいと思っています。

会長 ○指標に関していろいろと見直すべき点があるかと思いますが、今の計画に基づいて、平成 23 年度の評価に的を絞ってご意見がございましたら、ご発言いただきたいと思います。

#### ◆ II、IIIの評価について

委員 ○IについてはAやBで評価されていますが、II、IIIについては評価されていません。これは代表指標がないからだと思いますが、何もないのは違和感があります。市として計画が順調に進んでいるか、あるいは、もう少し見直さなければならないのか、市独自の判断でもよいので、やはり評価された方がよいと思います。

会長 ○それに関連して、P5にII、IIIの施策の総評が書かれていますが、後ろのデータも合せてそれぞれのところで総括されるという形であれば、バランスが取れるのではないかと思います。代表指標はないので仕方がないのですが、代表指標と環境指標を合せて総評として書かれているという理解でよろしいでしょうか。

事務局 ○結構です。

会長 ○その辺りについて、市民にわかりやすくするという事も合わせて、意見はございませんか。

#### ◆ 全体評価による整理について

委員 ○P2が総括表のようになっていますので、その右側にそれぞれの項目の全体評価を書くと一目でわかるのではないかと思います。まず、表紙としてP2を利用してそれぞれの項目の全体評価を書き、次ページから個々に詳細を説明すると見やすいのではないかと思います。

事務局 ○工夫させていただきたいと思います。

#### ◆ 公共施設における自然エネルギー導入比率の環境指標化について

- 委員 ○P7の「公共施設における自然エネルギー導入件数累計」について、年々増加しているのは良いと思いますが、公共施設において電力の何%を自然エネルギーで賄っているかという数字を出すとわかりやすいのではないのでしょうか。比率は増えていても、消費している量が変わらなければ効果が出ていないと考えられます。他市では、すべての公共施設の電力を自然エネルギーで賄うという方針を出した市もありますので、そういう指標も出されてはどうかと思います。
- 会長 ○自然エネルギー導入件数の抽出方法も含めてお答えいただきたいと思います。
- 事務局 ○自然エネルギー導入件数は設置箇所数であり、発電量の累計ではありません。本市の公共施設にメガソーラーを設置した例がなく、小規模なものを新たな公共施設の建設の際に載せています。その施設が使用する電力をすべて太陽光発電で賄えればよいのですが、現在の太陽光発電の効率はそれほど良くなくて、また、公共施設は夜間も雨の日も使用しますので、使用量の1割に満たない分を太陽光発電で賄っています。
- ただ、積極的に行政が取り組むことで、もちろん省エネルギー、節エネルギーの低炭素化の効果もありますが、見える形でまちの中に太陽光パネルが増えていくという率先実行の効果も狙ったものです。
- 今後は、固定買取制度が一定価格による買い取りとなりますので、十分に採算が採れるようになれば、イニシャルコストはかかりますが、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

#### ◆ 資源ごみの微増の原因について

- 委員 ○P8の「ごみの年間排出量(家庭系ごみ)」の見解に「主に資源ごみの増加により微増している」とありますが、その原因は分析されているのでしょうか。
- 事務局 ○近年、ニュータウン地区等において古い公団住宅等の建替えが盛んに行われ、長い間使われずに眠っていた家財道具が大量に出されたこと、また抜き取り等の業者がはびこっていたことから事業課でパトロールを強化する等したために、資源化物が増えたものと考えています。

#### ◆ ○△×の評価基準について

- 委員 ○評価の○△×の基準について、例えば、P12で「アジェンダ 21 すいた会員数累計」が99人から102人へ3人増えて○となっていますが、P13の「エコの語り部認定者数累計」は13人増えているのに△となっています。これはどのような評価基準になっているのか、教えていただきたいと思います。

事務局 ○大まかな評価基準としては、○が改善傾向、△が変化なし、×が悪化傾向となっています。ただし、評価をしているのは指標につながる施策の所管であり、例えば、「アジェンダ 21 すいた会員数累計」のように数が増えているので○というのはわかりやすいのですが、ご指摘のように増えているのに△や—という評価があります。例えば、「エコの語り部認定者数」は、数は増えていますが、増え方の割合が落ちているので今回は△と評価されており、そのような場合もあります。このように、基準が各課によって一定ではないので、基準の仕方についても、今後の見直しの中で検討したいと思います。

#### ◆ CO<sub>2</sub> 排出量の評価方法について

委員 ○P7 の CO<sub>2</sub> の排出量について、平成 23 年度分は平成 21 年度実績ですが、平成 21 年度に排出された量は前年度と比較すると改善されています。見解の中でも「電気の CO<sub>2</sub> 排出係数の変動によるところも大きい」と書かれており、実際に平成 21 年度は関電の努力により、CO<sub>2</sub> の排出係数が前年に比べて約 17%改善されています。これについて、CO<sub>2</sub> が減ったのは、関電の努力によるものなのか、企業や市民が努力したから減ったのか、その点は政策立案者、あるいは審議会でも分析が必要ではないかと思えます。

○昨年の福島原発の事故以来、関電の原発が停止し、昨年の係数が前年の 1.5 倍程度増えています。恐らく今年はずっと増える可能性があり、来年度に今年の実績を評価する際、CO<sub>2</sub> はかなり増えていると思えます。それは市民や企業が努力をしたのに増えているのか、どうか、その点を正しく評価しておくべきだと思います。

○方法は二つあり、CO<sub>2</sub> は係数が変わらなければどうなるかという試算を別途に行う方法、あるいは、エネルギー消費量を熱量のメガジュール(MJ)で評価するという方法です。実際の排出量はこのとおりなので、それも出したらいと思えますが、施策を評価する時は実際の評価指標を別途に持つべきではないかと思えます。

会長 ○現計画の中での考え方と、次への展開とを分けてご説明願います。

事務局 ○平成 21 年度に策定した環境基本計画の中では、目標を CO<sub>2</sub> にしています。これは国への報告が CO<sub>2</sub> となっているためであり、それまで電力の CO<sub>2</sub> の排出係数はあまり大きな変化がなくて、0.35 くらいで横這いでした。その後、平成 23 年に地球温暖化対策の新実行計画を策定し、その際、ご指摘のとおり、市民の活動、事業者の活動が表れるのは変動する排出係数を掛けた結果ではなく、まさにエネルギーの消費量そのものであろうと考えて、ジュールで表現するようにしました。このため、市民に対してはジュールで表現し、国に対しては CO<sub>2</sub>



で報告するという二面性は避けられません。ただ、基礎自治体としての動向についてはジュールで表現すべきだということを委員長以下の委員会でもご指摘いただいて、本市もその方針で進めることとなっています。

○そうしますと、今回、基本計画の見直しの際には、その考えを示した温暖化の新実行計画に従うことになるだろうと思います。そういう意味では、代表指標が変わるか、2本になろうかと思います。また、そこを審議会にご相談させていただきたいと考えています。

#### ◆省エネ・省CO<sub>2</sub>機器の導入補助事業について

- 委員 ○資料1は説明されたということですが、P14については特に説明がなかったように思います。これについて質問してもよろしいでしょうか。
- 会長 ○それでは、ご質問を伺う前に、先に説明をしていただきたいと思います。
- 事務局 ○<吹田市第2次環境基本計画の進行管理について（資料1 P14）の報告>
- 委員 ○意見はパブリックコメントで寄せられたものであり、回答はそれに対してなされたものだと思いますが、パブリックコメントは3件だけなのでしょうか。
- 事務局 ○3件だけです。
- 委員 ○専門的な内容もあり、なかなか市民生活の中ではわかり難い面があると思いますが、そういう点で、2番目の「省エネ・省CO<sub>2</sub>機器の導入補助事業の創設」の提案は市民にとって目に見える施策だと思います。省エネ・省CO<sub>2</sub>を進めていくという点で、吹田市が具体的にどのような施策を展開しているのか、市民にとって見てわかるものが必要ではないかと思います。例えば、この会議室から見える施設にも太陽光パネルが設置されており、吹田市として環境問題の課題について取り組んでいることがわかりますが、そういう点で、これからいろいろな施策の成果が上がってくる時に、吹田市が太陽光パネルの設置に対する補助を、ここに挙げられている理由だけで終了されたのは非常に残念です。「引き続き、国の動向や社会情勢を注視してまいります」という回答では、市としてのイニシアチブを感じません。
- 後程、見直しの議論があると思いますが、是非ともこれについては目に見える形で、吹田市がこの問題に取り組んでいることがわかるような施策を、第2次環境基本計画に沿った形で展開していただきたいと思います。この計画をつくった段階で、鋭意、議論され、決定された計画が、まだ先の長い計画の途中で終了しているのはもったいないと思います。
- 事務局 ○再生可能エネルギーの重要性が今後さらに増していくことは、市としても考えています。ただ、その促進の手法については、これまでイニシャルコストが高く、買取価格も安くて、寿命もランニングコストも読めなかったことから、経

産省が補助金を出して普及を図ってもなかなか拡がりませんでした。

- それに対して、回答の「国の動向や社会情勢」の変化は、まさにその点が劇的に改善されたという認識があります。売電の制度そのものが大きく変わって、固定買取制度がスタートし、売電価格も十分に採算の合う価格を設定されています。もう一つは電力価格との比較になりますが、電力価格が安定している、発電効率も年々高まっている、寿命もかつては 20 年持たなければ採算がとれないと言われていましたが、今は 10 年で採算が合うようになっています。
- したがって、これまでは、20 年を経過した太陽光パネルがあまりなくて、何年もつかはわからないという不安を抱えた中でスタートし、それを後押しするために公的補助金が必要と判断して補助をしてきましたが、今や注文がひきも切らないという状況で、市場原理に乗ったと判断されますので、公共としての補助金による後押しはここで一旦見合わせようということになったと思います。今後、後戻りすることはないと思いますが、何か状況が変わって、もし再び公共が後押しをしなければならない状況になった場合は、また検討させていただきたいという判断で、補助制度を中止させていただいたというと思います。

#### ◆ 総評の書き振りについて

委員

- 議論の最初に、代表指標とまとめ方について意見があり、会長から最初の表と併せて 1 枚にしてはどうかという話がありましたが、施策の総評が内容によって、環境指標とマッチングした内容で書かれている部分と、全く別の施策について表現している部分とかなりバラつきがあると思います。例えば、【I-2】では、ごみは減少傾向にあり、さらに進めるために、マイバッグ持参の話や廃食用油の有効利用等が書かれていますが、「～に努めています」という書き方で、その施策がどのように進んでいるのか、よくわからないように感じます。
- その他を読んでも、もう少し、全体の代表指標との関係、環境指標に対してどのような施策があって、施策を展開した結果がどうだったのか、どのように進んでいるのか等、関連してわかるようにしていただきたいと思います。

事務局

- P7 以降の表の「見解」が、行政としての見解であり、「～していく」ということを書いています。前段の施策の総評は、客観的な表現をしています。PDCA のチェックを環境審議会にお願いしている関係上、ここは審議会から「了」とされれば「こういうチェックをしていただいた」という形になります。したがって、ここは行政の思いというよりも、評価をしていただいたという文体に揃えていますので、その点で違和感があるのかもしれませんが。

委員

- そういう認識ということですが、この審議会でこの文章を作成したとか、評価した内容を盛り込んでいただいたわけではないので、行政として、代表指標、

- 環境指標を進めるための施策を行った上での自己評価かと思っていました。
- 事務局 ○P2 下の(\*)をご覧ください。代表指標と環境指標については環境審議会でご評価いただくというシステムで進めており、施策の柱、個別具体に対しては内部評価という形で、内部評価と外部評価を切り分けています。完全ではありませんが、そのような形になっています。
- 会長 ○P3~5 の総評は、審議会として、それまでの結果を受けて、「これからこのように取り組んでください」という書き振りになるものと思います。

#### ◆評価集約(案)のあり方と今後の進め方について

- 委員 ○書き振りはわかりますが、審議会でどなたが書いたのでしょうか。
- 事務局 ○P3 の上に(案)としているように、これは事務局の案であり、これを審議会ですべて「是」としていただければそのまま進めますし、そうでなければ、ご意見を反映させていただきたいと思っています。
- 委員 ○そういうことであれば、本日は準備をしていないので、もっと準備をしたかったと思います。
- 委員 ○先程、私が指摘したところや、どこにも書かれていないことが突然出てくることもあります。本日、初めて参加される委員の方もおられますし、これでよいか、どうかを問うのであれば、本来、もう少し丁寧な資料等があっても、それに対する表現を我々が「是」とするかどうか検討できるようにしなければならぬのではないかと感じます。
- 審議会から言うのであれば、「熱環境マップを作成しました」という表現もどうかと思います。
- 会長 ○前年度も同じような形で出されています。この場でそれぞれ細かく取りまとめるのは難しいと思いますが、公表までに時間的余裕はあるでしょうか。
- 事務局 ○来年度の予算に反映するためには、この時期にこの評価をしなければ予算の軽重をつけられません。そういう意味で、1~2 日を急ぐものではありませんが、ご指摘いただきましたように、事務局案の内容について一度改めてご意見をいただきたいと思っています。書面でもメールでも結構ですので、ご意見を事務局へいただき、それを反映したものを正副会長にご確認いただいて、最終確定するという形でよろしいでしょうか。
- 会長 ○本来であれば、本日、それを審議すべき案件だったわけですが、一つの方法として、今、事務局から提案をいただきました。まとめ方も少し変えるという話がありますが、一番大事な総評の内容について、委員の皆様から事務局の方に意見をいただいて、正副会長のところでまとめさせていただき、念を入れるとすれば、もう一度皆様にお送りしてご覧いただき、その後、ご一任いただくと

いう形でどうでしょうか。そのくらいの時間的余裕はあるのではないかと思います。全幅の信頼をいただいて、ご一任いただき、皆様の意見を踏まえてまとめさせていただければありがたいと思います。

事務局 ○それでは、時間を設けてご意見をいただき、それを反映した案を再度、皆様全員にお配りいたします。併せて、さらにそれに対するご意見がございましたら、お申し出いただきまして、それを合せて正副会長にご判断いただくということでもよろしいでしょうか。10月に入りますと時機を逸する恐れがありますので、できましたら、議会が開催される9月中旬頃までにはまとめさせていただきたいという希望があります。

会長 ○できれば、そのような形で進めていただきたいと思います。  
○併せて、もう一つお願いしたいのは、次の議題とも関係しますが、指標についての問題点等、その辺りのコメントも同時にいただければ次に反映できると思いますので、是非お願いしたいと思います。

○したがって、今回の評価に関しては、現行に関してどのような実績があるかということ素直に評価して、次につなげていくという形で、課題を出していただければよいのではないかと思います。変則的ですが、事務局から提案があったような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

委員 ○締め切りを決めていただきたいと思います。

会長 ○締め切りについては、事務局の方で決めていただけますでしょうか。

事務局 ○ボリュームも大きいので、今月末までに出していただきたいと思います。

会長 ○それでは、今月末までということで、よろしく願いいたします。

委員 ○今回は委員も替わっていますので、仕方のない面もあるかと思いますが、来年の進め方は、議論するポイントを明確にした上で、一度、審議会でどのように評価を盛り込むかということ議論できる場を設けなければならないと思います。そのためには、この下はボリュームが大き過ぎて資料を出せないとはいえませんが、これでは施策の判断は難しいと思います。書かれていないことが突然出てくるところもありますので、その点も考えなければならないのではないかと思います。

事務局 ○この反省を来年に活かさせていただきたいと思います。

会長 ○それでは、時間もありませんので、「(2)計画の見直しについて」の説明をお願いします。

## (2) 計画の見直しについて

事務局 ○<吹田市第2次環境基本計画の見直しについて(資料2)の報告>

会長 ○見直しについて説明がありましたが、ご質問、ご意見等はございませんか。

#### ◆地域のエネルギーのあり方を組み込んだ指標と施策について

- 委員 ○「見直しのポイント」で、エネルギーのあり方の中に地域のエネルギーのあり方を考えるというポイントを加えたのは賛成です。特に、今回の原発の問題を踏まえると、再生可能エネルギーの普及がこれまで以上に重要になっていると思います。それを組み込んだような見直しが必要ではないかと思います。
- したがって、指標の中でも、例えば、従来の「公共施設における自然エネルギー導入件数累計」等ではなく、設備容量や場合によってはエネルギー量そのもので表す、それも公共施設に限らず、家庭で導入している太陽光発電や、あるいは買取制度が出てくるともっといろいろな形態のものが入るので、それらすべてを含めた市全体の指標を入れる必要があるのではないかと考えています。
- それと同時に、その普及を推進するあり方として、ここに書かれている地域の発展がエネルギー利用と関わって出てくるといいますので、そこを意識的に組み込んだ施策が必要になるような気がします。具体的には、これからの議論の中で提案したいと思いますが、現時点では、このように考えます。
- 会長 ○ありがとうございます。他にはご意見はございませんか。

#### ◆主な見直し内容について

- 委員 ○P2の4(3)に「指標、施策、重点プロジェクト、進行管理は、現計画の総括及び現状に合わせて見直す」とありますが、今回、「基本理念」と「のぞましい環境像」を検討されますので、施策は当然、「基本理念」と「のぞましい環境像」を表すような具体的内容になるべきです。ですから、(3)の中に「基本理念」「のぞましい環境像」に即して変えるという言葉が入らなければ、小手先でひねるような形になってしまうのではないかと思います。
- 会長 ○ありがとうございます。見直しの内容も、施策体系が「変更なし」となっていますが、「基本理念」「のぞましい環境像」を見直すと、当然、検討する必要があると思いますので、理念に基づいて柔軟に考えていただくことも重要ではないかと思います。これは意見として申し上げておきます。
- 他に、ご意見はございませんか。先程、資料1の案件でご意見を求めることになりましたので、その中で見直しについてもお気づきの点等がございましたら、入れていただければと思います。
- 委員 ○資料1とも関わりますが、例えば、「連携・協働による取組の推進」や「環境学習・環境教育の推進」等の指標が、市が直接関わっている範囲内の指標に留まっています。本来、環境の取り組みは、市民自身が主体的にNPOをつくる等、様々な形での協力・協働がそういうところで生まれていくのが望ましい方

法です。そういうものに市がサポートすることが重要だと思いますし、特に、これから再生可能エネルギーが普及してきますと、そういうところの重要性が増してくると見られます。

○そこをどのような形で指標の中に入れるかは難しいところですが、やはり、市が直接関わるだけではなく、例えば、市内にどのような NPO がどのくらい存在するのか、あるいは、今まで環境 NPO ではなかった団体が、買取制度の施行に伴って再生可能エネルギーに取り組むという動きが全国的に出ていますので、そういうものを盛り立てていくような協力・協働のあり方も考えられると思います。既存のあり様だけで考えるのではなく、創出していくような動きが全体として出てくるのが望ましいと思っています。それをどのような形でここに組み込んでいくかという視点が必要です。教育も同じだと思います。

会長 ○そういう意味で、「アジェンダ 21 すいた」の行動計画の推進と両輪で進めようということなので、そこからの情報収集や連携は重要になると思います。

事務局 ○環境基本計画は行政計画であり、内容は、行政が何のために何をするのか、それができたのかどうかという PDCA になりますが、併せて、今の社会の状況はどうなっているのかというところが、今のご指摘だと思います。それに対して、すべて行政が数字を変えるわけではなく、状況を客観的に表すような数字をご提示しながら、我々が関与できる部分は目標の数字として出しています。その行政の重みの割合は多いところも少ないところもあると思いますが、両方をご提示しなければ、行政の進行管理だけでは社会の変化がわからないというご指摘だと思いますので、それも見直しの際に検討させていただきたいと思います。

#### ◆ 自然エネルギー政策に対する目標について

委員 ○3 (2) の「基礎自治体としての役割の明確化」について、国や広域自治体の役割を踏まえるのは当然だと思いますが、3.11 の災害もありましたので、他の進んでいる自治体では国や都道府県の政策を越えて先進的な役割を果たすべく、自然エネルギーを積極的に活用するとしているところもあります。したがって、この基本計画では、吹田がどのように環境都市としてそれを推進していくのか、先進的な役割を果たすのかという決意、目標も必要ではないかと思います。

事務局 ○これは市全体に対するご助言と受け止めさせていただきました。投下できる資本は一定であり、そこに強弱をつける際に、効率性、効果性はもちろんありますが、市としてどこから手を着けるべきか、それを考えなければなりません。その際は府や国と連携し、また法に関しては国の役割、それを動かすのは基礎自治体の役割かもしれません。そういう意味で、CO<sub>2</sub>に関しては地球レベルの問題ですので、市として取り組むべき内容はソフト系なのか、ハード系なのか、

経済誘導なのか、その辺りは悩ましいところですが、まず、基礎自治体として何をすべきなのかということを経済基本計画の中で整理して、重点プロジェクトにしていきたいという考えがあります。またご意見をいただければありがたいと思います。

会長 ○それでは、基本計画の見直しについての議論はここまでにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同 ○（了承）

会長 ○それでは、予定の議事が終わりましたので、本日の環境審議会はこれで終了させていただきます。長時間、どうもありがとうございました。

—閉会—